紫雲山明覺寺　（南）

地域の人は「観音サン」と呼ぶ。本尊は、木造十一面千手観音立像である。寺院の由来記によれば、木山城主･木山惟久が赤井城を築城した後に建立したとあるが少し矛盾がある。明覺寺は福田寺や安養寺の里寺として機能していたと考えられる。また、旧暦の 10 月 17 日に獅子舞がある。

福田校区

fukuda

ウオーキングルートの距離…14・9キロ

福原観音堂　（福原）

この観音像には､「木山氏が薩摩･島津氏に攻められた際、城主の妻子とその乳母が観音像を背負って福原まで逃れ、この地に置いて逃げ延びた」また、「赤井城落城の際、城のお姫様が守り本尊を、赤井城が見えるこの地に祀ってくれと言い残して観音像を置いていった」という伝承がある。

内寺薬師堂　（内寺）

薬師三尊像は、安養寺が廃寺されたあと明治 18 年に内寺の人たちによってここに安置された。薬師三尊像は室町時代の作とされる。
※民家の敷地内を通ります。

津森校区

tsumori　ウオーキングルートの距離…24・2キロ

堂園釈迦堂　（堂園）

堂園という地名は、寺院に附属する園地の意味である。かつてこの地には「池寺」があったとされ、今の釈迦堂は、その池寺ではないかと考えられる。堂内には金色の木像釈迦如来坐像のほかに仏像と馬頭観音像が祀られている。堂のそばには熊野宮と猿田彦大神碑があり、近くには大蛇伝説の「堂園池」がある。

二尊寺跡　（北向）

平安時代末期の 12 世紀中頃に開基された寺跡と推定されている。現在は、堂と仏像と板碑が残る。木造阿弥陀如来坐像・木造地蔵菩薩坐像・韋駄天立像など６対の仏像があり、室町時代末期の仏像も含まれている。また、板碑と五輪塔残欠があり、板碑の１基には文禄四(1595)年と刻銘されている。

龍池山千光寺　（下陳）

本尊は平安時代後期作。像高 272.2 ㎝の県下最大級の木造十一面千手観音立像である。千光寺は室町時代には津森城主・光永氏の菩提寺であった。本尊は下陳地区の地蔵堂付近にあったとされる「石川の寺」の仏像ではないかと推定される。